

オオヒキヨモギ *Siphonostegia laeta* S.Moore

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 9。愛知県では生育地が多く、個体数もそれなりにあり、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

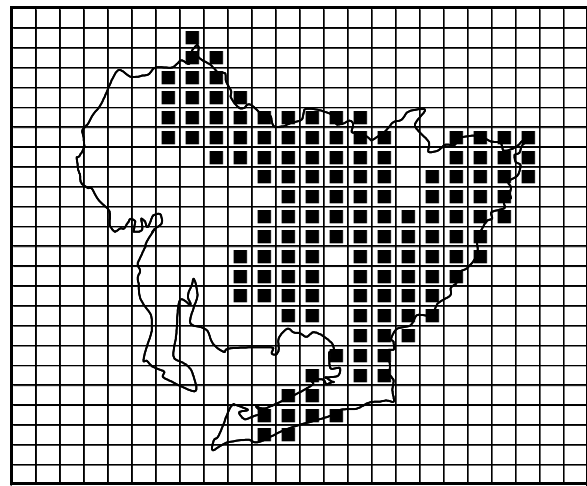
半寄生の1年生草本。茎は斜上し、よく分枝し、高さ30~70cm、葉とともに開出した腺毛が密生する。葉は茎の下部では対生、上部ではややずれて互生し、長さ0.5~2.5cmでくさび形の翼がある柄があり、葉身は卵形、長さ1.5~4cm、幅1.2~3cm、羽状に深裂し、裂片は比較的大きくて幅が広い。花期は8~9月、花は上部の葉腋に1個ずつつき、がくは細い筒形で開出した腺毛が密生し、長さ2~2.2cm、先端は5裂し、裂片は狭披針形で長さ5~7mmである。花冠は黄白色、長さ2.5~3cm、唇形、上唇は先が狭まらず切形で、2裂しない。果実は蒴果で、長さ約13mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山(小林 60090, 1996-9-14)、2 豊根(小林 60076, 1996-9-14)、3 東栄(小林 39487, 1992-9-19)、7 設楽東部(芹沢 63107, 1992-9-4)、8 鳳来北東部(加藤等次 1711, 1992-8-15)、11 作手(小林 53266, 1994-8-19)、12 新城(芹沢 60148, 1991-8-29)、15 豊橋北部(芹沢 66850, 1993-8-6)、17 田原東部(小林 73089, 2001-8-5)。西：19 旭(日比野修 1705, 1993-8-28)、20 足助(芹沢 70262, 1994-8-3)、21 下山(芹沢 63751, 1992-9-24)、22 小原(日比野修 2429, 1994-7-29)、23 藤岡(日比野修 3690, 1996-8-8)、24 豊田東部(畑佐武司 2312, 2001-8-13)、25 豊田北西部(畑佐武司 578, 1999-8-14)、29 岡崎北部(芹沢 86321, 2010-9-29)、30 岡崎南部(芹沢 70187, 1994-8-1)。尾：37a 瀬戸(芹沢 82047, 2012-9-10)、45 犬山(芹沢 87849, 2012-9-10)、48 春日井(村瀬正成 15369, 1997-8-23)。主として低山地に生育しており、深山にも丘陵地にも少ない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州(関東地方~中国地方)および四国(瀬戸内側)に生育する。

【世界の分布】

日本および中国大陸中南部に分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

低山地の林縁に多い。しばしば林道わきの崖状地などに生育している。「低地のやや乾いた草地に生える」と書かれている文献もあるが、ヒキヨモギ(655頁)と異なり、通常そのような場所に生育することはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

群生することはないが、あちこちに点在している。近年特に減少しているということもないが、よく茂った森林の中では生育できないため、森林化の進行が懸念材料である。本種のような、どうも言うことのない場所に生育しているがそれでいて雑草的でない植物は、将来的にはアキノハハコグサのように、希少な植物になってしまう可能性もある。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような林縁部も、生物多様性を保全する上ではそれなりに重要である。森林や湿地のような自然度の高い場所だけでなく、軽度に攪乱された環境も保全する必要があることは、よく認識する必要がある。

【特記事項】

ヒキヨモギからは、茎が直立せず、葉の切れ込みが浅く、花が鮮黄色でないことで区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.136, 平草本 III p.114, 平新版 5 p.162, 環境省 p.502, SOS 旧版 p.81.